

植物

確認種

120 科 531 種類を確認しました。全調査地で雑木林の主要な構成種であるクヌギ、コナラ、林床の代表的な種であるアズマネザサが見られました。雑木林が利用されなくなったためシラカシなどの常緑樹も混在していたほか、湧水周辺には湿生植物も見られました。また、希少種が残っている一方で外来植物が分布を広げていることも分かりました。

確認した植物の集計表

分類群			科数	種類数
シダ植物			11	26
種子植物	裸子植物		6	15
	被子植物	双子葉植物	63	248
		離弁花類	25	122
	単子葉植物		15	120
合計			120	531

希少種

希少種のうち市内を分布域とする自生種は、国 RDB の掲載種 3 種、都 RDB の掲載種 7 種の合計 8 種を確認しました。国 RDB 掲載種はマヤラン、国、都両方の掲載種はトキホコリ、キンランの 2 種、都 RDB 掲載種はニリンソウやキツネノカミソリ、ギンランなど 5 種でした。

環境別にみると、落ち葉などが積もってできた腐植質の多い林床に生育するマヤランが生育していました。雑木林の林床に生育する種として、ニリンソウ、キツネノカミソリ、ギンラン、キンラン、ササバギンランを確認しました。また、湿った環境に生育するアイアスカイノデやトキホコリなどを確認しました。



マヤラン (国 RDB : VU)



トキホコリ
(国 RDB : VU 都 RDB : CR)



キンラン
(国 RDB : VU 都 RDB : VU)



アイアスカイノデ
(都 RDB : EN)



キツネノカミソリ
(都 RDB : VU)



ギンラン (都 RDB : VU)



ニリンソウ (都 RDB : NT)

外来種

外来種は 126 種を確認しました。このうち、特定外来生物の確認はありませんでしたが、外来種リスト掲載種を 28 種確認しました。その他、国内由来の外来種リスト掲載種を 1 種確認しました。

総合的に対策が必要な外来種（総合対策外来種）のうちの重点対策外来種は、トウネズミモチ、ツルニチニチソウ、オオブタクサ、セイタカアワダチソウ、セイヨウタンポポ、キショウブ、ノハカタカラクサなど 13 種、その他の総合対策外来種としては、アメリカセンダングサ、アメリカオニアザミ、ヒメジョオン、ハナニラなど 12 種と国内由来のシュロ 1 種を確認しました。トウネズミモチ、セイタカアワダチソウ、セイヨウタンポポ、シュロは全調査地で確認しました。上記のその他の種は 2～4 箇所の調査地で確認しました。

適切な管理が必要な産業上重要な外来種（産業管理外来種）は、オニマタタビ（キウイ）、ビワ、モウソウチクの 3 種を確認しました。オニマタタビは姿見の池緑地、東京経済大学、真姿の池周辺で、ビワは姿見の池緑地、東京経済大学、モウソウチクは真姿の池周辺、平兵衛樹林地で確認しました。

また、外来種リストの掲載種ではありませんが、市内に少なく、地上で見られるのが早春のみのため、認識しづらいキクザキリュウキンカも確認しました。



トウネズミモチ
(重点対策外来種)



ツルニチニチソウ
(重点対策外来種)



セイタカアワダチソウ
(重点対策外来種)



キショウブ (重点対策外来種)



ノハカタカラクサ (別名：トキワツユクサ 重点対策外来種)



ハナニラ
(その他の総合対策外来種)



シュロ
(国内由来・総合対策外来種)



オニマタタビ (キウイ)
(産業管理外来種)



キクザキリュウキンカ